

クロックアップ・サイリックス10回公演上演台本

水先案内

作・演出／川原 武浩

出演船員

新入り 田坂 哲郎

甲板長 長岡 暢陵

艦長 大竹 謙作

航海長 藤 裕美

操舵長 伊藤 綾

機関長 中島 信和

通信長 森久 智江

料理長 工藤 景子

男 上瀧 昭吾

女 濱崎 留衣

スタッフ

照明 西本 正明@シーニツク

音効 青井 美貴

装置 兄弟船

椅子に座り、目を閉じているセーラー服の女
 背後に何かの気配を感じ、ハッと目を開き身をかわず。
 女のうしろに中年男の姿。
 男の振り下ろした指示棒が、女の頭を掠める。
 指示棒が机を打つ、乾いた音が響く。

男
 次。

床に置かれた扇風機がカラカラと回りながら風を送り、首を振っている。
 そこは夏休みの教室か。

女、椅子に座ったまま半身振り返り、睨むでもなく、男の顔を見つめる。

次、読んで。
 騙されないぞ。

？

騙されないので。前が無いんだから、次なんて無いです。

・・・次、読みなさい。

読みません。

おいおい、何言ってるんだ？

馬鹿にしてるんですよ。また居眠りしてたって思ってるんですよ。違いますから、起きてましたから。騙されないので、私。

(面倒くさそうに) 思ってるから。

じゃあ、どうして叩こうとしたんですか。

それは、だな。

何ですか。

虫がいたんだよ、ここに。

嘘だ。

本当だよ、蚊だかなんだか。羽のついたやつが。(わざとらしく机や指示棒を見て)
 あれ？ 外したかな。

見ませんでした、そんなの。

なんか飛んでったみたいだな。

飛んでません。

おっと、いたいた。

男、女の胸のあたりをめがけて指示棒を振り下ろす
 女、無言でその手を止め振り払う。
 間。

男 女 男 女 男 女 男 女 男 女 男 女
・・・・また飛んできた。・・・悪い虫だ。
飛んでません。
飛んできたよ。
飛んでないです。
見たろ。
見えませんでした。
飛んできて。
飛んでません！ 初めから無いものは飛んでいきません！

静寂。

男 女 男 女 男 女 男 女 男 女 男 女 男 女 男 女 男 女 男 女 男 女 男 女 男 女
・・・・もう、いいから、次。
よくないです。前が無いんだから、次も無いです。はじめから無いものは読めません。
前とか次とかもいいけどな、もつと後とか先とかのことを考えないと。もうないんだぞ、後が。
後が無い？
普通考えてそうだろう。赤点、追試、補習ときたら、普通もう後が無いだろう。
あなたの？
君のだよ。この補習でなんとかしないと。
・・・・そうか、やっぱり捕われてるんだ。
捕われてるのはこっちだよ。先生だって、この暑い中、クーラーもない教室で補習なんてやりたくないんだよ。やらずに済むならその方が楽なんだから。・・・次
読んだら、今日はもう終わりだから。
じゃあ、次って何ページからですか。
わかるだろ、起きてたんなら。
だから起きてました、私。
寝てたからわからないんだろ。
寝てないです。起きてました。
素直に認めなさい。寝てたって。
認めません。
次。85頁の頭から。
嘘だ。
嘘じゃないよ。さあ、読んで。
読みません。読んだら寝てたって認めたことになりません。そんなの嫌です。
寝てないのに寝てただなんて、そんなの耐えられません。
読んだら今日は終わりにするから。
終わらなくたっていいです。
いいかげんにしろ！ 先生の言うことがきけないのか。
騙されないぞ。私、絶対騙されませんから。

女 男

騙す騙すって、いったい先生が何を騙すって言うんだ。
騙されないぞ。だって、あなたは先生じゃない。

音楽。

その言葉に呆然と立ち尽くす男。

女、机の上のペットボトルに入ったミネラルウォーターを飲み干す。
空きのボトルを投げ捨てると、カバンの中からもう一本を取り出す。
新しい水に口をつけた瞬間、全てが静寂につつまれる。

女

・・・しよっばい。

音楽。

暗転。

(シーン0終了)

海鳥の鳴く声。

ゆるやかに流れる時間。

そこは大海を漂う帆船の上。

セーラー姿の二人の水夫がぼんやりと海を眺めている。

甲板長は、パンをかじり、ペットボトルの水を飲みながら。

新入はあくびをかみ殺しながら。

新入、我慢できずに大あくび。

新入 甲板長。

(気づいてない)・・・。

新入 榊原甲板長。

甲板長 なんだ。

新入 暇ですね。

甲板長 暇だな。

新入 うるさいですよね、鳥。

甲板長 そうか？

新入 いっそ、冰山とか向かってきませんかね。

甲板長 お前、この陽気で頭煮えてないか？

新入 じゃあ、鯨とか、

甲板長 めったに無い。

新入 巨大イカとか。

甲板長 みたことない。

新入 古代戦艦とか。

甲板長 ないないない。

新入 もー、つまんねー。

甲板長 つまらんか。

新入 ぶっちゃけ。

甲板長 後悔してる？

新入 してます。もう後悔も後悔、大後悔時代ですよ。

甲板長 暇、退屈、おおいに結構。

新入 でもそんなんじゃ刺激なくなくないですか？

甲板長 戦争を知らない子供たちか。

新入 なんすか、それ。

甲板長 ♪戦争が終わって、僕らは生まれたくってな。

新入 ラップですか。

甲板長 フォークだよ。

新入 フォーク？

甲板長 やれやれ「戦争を知らない子供たち」を知らない子供たちか。

甲板長、食べかけのパンをちぎって空に投げる。
海鳥、餌を求めてマストのあたりに殺到。
更に激しく鳴く。

新入 ああ、もう、うるせえなあ、鳥！
甲板長 まあいいじゃないの、鳥だって口がついてんだ。そりゃ鳴くさ。
新入 せめて、餌やるのやめましようよ。食ったら出して、甲板汚れて、掃除するのは俺ですよ。
甲板長 ああ見えて、義理堅いんだよ、あいつら。
新入 そうなんですか。

海鳥の皆さん、盛大に甲板に糞をする。

新入 あー！！
甲板長 はい、掃除。
新入 どこが義理堅いんですか。
甲板長 冗談に決まってるだろ。
新入 うーわー、騙されたー。
甲板長 まあいいじゃないの、そんなたいした数でもないし。
新入 いや、ちよつと多すぎじゃないですか、これ。
甲板長 近くに島が無いんだろ。休ませてやれよ、減るもんじゃなし。
新入 シツ、シツ！ 飛べ！ どっか行け！
甲板長 ずっと飛んでる鳥もいなくなりや、ずっと泳いでる魚もいないよ。ずっと起きてる人間がいないみたいにな。

甲板長、またひとつあくび。
と、そこに船長然とした男がやってくる。
甲板長、男に敬礼。

艦長 ご苦労。
甲板長 あ、こちら、新人です。
新入 (甲板長に) あの、どなたですか？
甲板長 冗談だったら笑えないし、本気だったらもつと笑えないぞ。
新入 えーと？
甲板長 (口パクで) カンチョウ。
新入 ???
甲板長 (口パクで) オキタカンチョウ。
新入 あ、ああ、はいはいはい。・・・私、このたび本船に配属になりました、新人の下丸子です。はじめまして、オキタ船長。

艦長 私を船長と呼ぶな！！
新入 艦長 はい？
新入 艦長 (自分を指差して) 艦長。
新入 艦長 私のことは艦長と呼びたまえ。ところで、新人君。
新入 艦長 はい。
新入 艦長 好きな食べ物は。
新入 艦長 ええと、カレーです。
新入 艦長 ということは人參だな。
新入 艦長 いや、カレーです。
新入 艦長 カレーの中に入ってるだろ、人參。
新入 艦長 入ってますね。
新入 艦長 カレーが好きということは、その中に入ってる人參も好きということだろう。
新入 艦長 人參は、普通です。
新入 艦長 そうか、好きか。人參好きか。
新入 艦長 えー？
新入 艦長 他には。好きな食べ物。
新入 艦長 きんぴらごぼうとか。
新入 艦長 ということは人參だな。
新入 艦長 うちのには入ってません。
新入 艦長 うちのには入ってる。
新入 艦長 だからウチのには入ってないんですってば。
新入 艦長 今日から入れるように。これは命令だ。君のお母さんには私から連絡しておく。
新入 艦長 ええええええ？
新入 艦長 他には。
新入 艦長 アイスクリームとか。
新入 艦長 ということは人參・・・
新入 艦長 じゃありません。ぜんぜん違ーう。絶対関係ない！
新入 艦長 榊原甲板長！！
甲板長 はいっ！！
甲板長 どういう教育をしてるんだ。アイスクリームといえはなんだ。
甲板長 人參です。
甲板長 だろ。
新入 艦長 なんだ。
新入 艦長 おい貴様、目をつぶれ、歯を食いしばれ、チェストー！ (殴る)
新入 艦長 どうしてそんなに拘るんですか、人參に。
新入 艦長 君は新人。好きは人參。語呂がいい。語呂がいいのがすきなんだゴロ。
新入 艦長 なんですか、その謎のキャラクターは。
新入 艦長 人參好きの新人か。ぶぶぶ。よし、お前、エンジン担当。人參好きの新人がエンジン担当、ぶぶぶ。(近くの伝声管に) おーい、機関長。こいつよろしく頼む。

甲板長 覚悟しとけよ。
新入 え、何をですか。
甲板長 艦長が考えた名前がお前の名前だ。それがどんなに不本意でも。船の上では船長は絶対だ。
新入 かなり意味がわからないんですけど。
甲板長 ちなみに俺も本名は榊原じゃない。田中だ、田中。
新入 そりやまたあっさりした名前だ。それが何をどうすると榊原に。
甲板長 理由は忘れた。というか本当は覚えてるんだが、あまりに馬鹿らしすぎて話す価値もない。だから忘れたって言うことにしてる。
新入 そうですか。
甲板長 それからな、艦長の本名も沖田じゃない。
新入 え、そうなんですか。
甲板長 当たり前だろ、そんな出来すぎた名前があるもんか。艦長といえは沖田かカークだっていって、日替わりで名前変えてるんだよ。最近では沖田の方が艦長の中できてるらしくて、出現率が高い。7…3ぐらいだ。
新入 艦長、本名は。
甲板長 鈴木だ、鈴木。
新入 そりやまた風情の無いひとやまいくらみたいな苗字ですね。
艦長 キャンディ君！
新入 俺ですか？
艦長 そう、君だよ。キャンディ君。
新入 あの、なんか全然脈絡が無いんですけど。
甲板長 読めた！ にんじん↓フランス文学「にんじん」↓そばかす↓気にしない↓キヤンディキヤンディ。めんどくさいので一回略してキヤンディ。
甲板長 キヤンディ？
新入 キヤンディ？
艦長 ひとりぼっちでいると、ちよっぴりさみしいだろう。さあ、この鏡をやろう。甲板長 ありがとうございます。
新入 ありがとうございます。
艦長 礼はもういいから、あるだろう、キャンディとして鏡をみつめて言うことが。新入 え、いや、なんですか？
艦長 榊原甲板長つつっ！！
甲板長 はいつつっ！！
艦長 歯をつぶれ！
甲板長 ええっ！？
艦長 目を食いしばれ！
甲板長 こうですか！！

艦長 チェストー！（殴る）
甲板長 ありがとうございます！
艦長 まあ、新人だからしょうがないだろうが、よろしく頼むよ。
甲板長 アイアイサー！
艦長 キャンディ君、君の大好きな「お転婆」「いたずら」「かけっこ」「スキップ」は艦内では禁止だ！ いいな。
新入 いや、別に大好きじゃ
艦長 大好きだろ。
新入 大好きです。
艦長 大好きで、さよなら、だ。キャンディ君。
新入 泣きべそなんて、さよなら、だ。キャンディ君。
艦長 いや、泣いてないですけど。
新入 ならば泣け！（右の頬を張る）
新入 うわーん。
艦長 そして泣き止め！！（左の頬を張る）この泣きべそめ！！

艦長、なんだかうれしそうな顔。

新入 ……くそ、間違えた。なんだこの船。…大後悔だ。
艦長 さあ、泣きべそにさよならしたなら行ってこい。
新入 え、どこにですか？
艦長 異動だ、異動。人好きの新人が甲板員なんかやってちやいかんだろう。人好きの新人はエンジン担当！
甲板長 機関室、ここ降りて、すぐだから。
新入 ええええ？
艦長 返事は！
新入 アイアイサー！ ええと、あの、じゃあ、失礼します。

新入り、梯子を下り、甲板から船内へと入っていく。

艦長 榊原甲板長！
甲板長 はい。
艦長 食べてるね、パン。
甲板長 はい。今日はコッペパンです！
艦長 明日は？
甲板長 メロンパンです。
艦長 明後日は？
甲板長 焼きそばパンです。
艦長 地震災害時には？
甲板長 乾パンです。
艦長 （なんでもいいです）今日の下着は

甲板長 柄パンです。

艦長 (さらになんでもいいです) 好きな女子アナ

甲板長 あやパンです。

艦長 いいねえ。人參好きのエンジン担当に、パン好きの甲板長。ふふふ。いいねえ、

実にいい。実に語呂がいいゴロ。

甲板長 艦長、そのキヤラなんなんですか。

艦長 うふふふ、ぼくゴロえもん。水田わさびバージョン。

甲板長 新ドラえもんみてないので、似てるのか似てないのか、判断しかねますが多分似てないと思います。

艦長 よし、腹ごなしにパン食い競争でもするか。

甲板長 沖田艦長、それは腹はこなれるんでしょうか。

艦長 こなれるか、こなれないかは問題じゃないんだよ、甲板長！ 艦長と甲板長が

パン食い競争。この語呂がいいか悪いか、この語呂がいいか悪いかだけが問題なんだ。実はもう前部甲板にアンパンが吊り下げてある。さあ、位置について、よいい、パーン！ ううん、語呂がいいねー！

艦長と甲板長、走り去る。

梯子から降りてくる新入り。

扉の前で立ち止まって・・・

新入 ええと、降りてすぐって、ここかな。(ノックして) 失礼します。

と、その部屋には大きな舵と羅針盤。

操舵長と航海長の姿がある。

操舵長 とりあえず、取り舵一杯！ 北北西に針路をとれー！

操舵長、舵輪を左方向に回す。

航海長 面舵一杯！ 南南東に針路をとれ！

航海長、舵輪を右方向に回す。

操舵長 針路をとるっていえば、やっぱり北北西でしょ。

操舵長、舵輪を左方向に回す。

航海長 駄目だって、絶対駄目だって、後になってやめときやよかったーって思うって、

絶対。

操舵長 そうだね。じゃあ、面舵一杯！

操舵長、舵輪を右方向に回す。

航海長 あ、でも待つて待つて。南南東もなんか駄目な気がする。
操舵長 そうだね。じゃあ、やっぱり北北西。取り舵一杯！

操舵長、舵輪を左方向に回す。

航海長 間をとつて、東北東か、西南西でどうかな。

操舵長 間をとつたらここで止まるつてことになるんじゃないのかな。
航海長 それもそうか。

操舵長 で、今、どのへんなの？

航海長 (海図をかなり大まかに指して) だいたいこの辺かな。

操舵長 だいたいって、それ、だいたいすぎない。

航海長 そうかな。三田寛子と三田佳子を同一人物だつて言い張るぐらいのだいたいじゃ駄目かな。

操舵長 ちよつとだいたいすぎるでしょ。

航海長 じゃあ、だいたいこの辺。

操舵長 また、かなり大胆にだいたいだね。

航海長 マナカナを同一人物つて言い張るぐらいのだいたいだからいいんじゃない。

操舵長 まあ、それぐらいならいいか。

航海長 じゃあ、今だいたいこのへんだから、だいたい東北東ぐらいの方向に行つちやおうか。

操舵長 いいんじゃない？

新入 あ、お取り込み中失礼します。

操舵長と航海長、手を止めて

航海長 はい？

操舵長 何？

新入 あの、はじめまして。新人の下丸子・・・じゃないや、キャンディです。宜しくお願いします。

航海長 航海長の玉手、本名山本です。

操舵長 操舵長の加賀谷、本名佐藤です。

新入 またあつさりした本名のわりに、濃い名前ですね。

航海長 君に言われたくないよ。

操舵長 君に言われたくないよ。

新入 ごもつとも。あのよろしければ由来を。

航海長 長いわりにつまらないから。

操舵長 短いけどマニアックだから。

新入
君こそどうなの。

航海長
そうだね。どういう由来なの。

新入
ええっとですね、新人なので、人好きだろって言われて、でフランス文学が
なんとかって言われて、あの、すみません。なんか分からないけど結果的にキ
ヤンディです。

航海長
わけわかんないね。

操舵長
そうだね。わかんないね。

航海長
甘いつてこと？

操舵長
丸いつてこと？

航海長
キャンディだから丸いつてことはないんじゃない？
のど飴とか、甘いつていうより辛いくない？

新入
・・・あの、機関室は、ここじゃ、ないですよ。

操舵長
そうだね。ここじゃないよ。

航海長
行くの？ 機関室？

新入
あ、はい。

航海長
やめといたほうがいいよ。

操舵長
そうだね。やめといたほうがいいね。

航海長
絶対後悔するよ。

操舵長
そうだね。絶対後悔するよね。

新入
え、なんでですか。

航海長
行けばわかる。

操舵長
見ればわかる。

新入
やだなあ、やめてくださいよ、脅かすの。

航海長
脅かしてないよ。

操舵長
どうしても行くの？

新入
はい、船長が

艦長、入ってくる。

艦長
私を船長と呼ぶな！！

艦長、去る。

新入
艦長が行けつて。最初、甲板に配属されたんですけど、エンジン担当に異動だ
つて言われて。

操舵長
そう、それじゃしょうがないね。

航海長
機関室、ここで、通路まっすぐ行って突き当たりだから。

新入
ありがとうございます。

新入り、扉から出て行く。

航海長 ……どこにいくんだろうね、この船。
操舵長 そうだね。まあ、舵を切ってる限り、どこにもいかないけどね。同じところをぐるぐる回るだけで。

航海長と操舵長、適当に舵輪を回して遊んでいる。
新入り、まっすぐ行って突き当たりの扉の前にたどり着く。

新入り まっすぐ行って突き当たり……ここか。

新入り、扉をノック。

新入り 失礼します！

新入り、扉を開けて機関室に入る。
と、中には気難しそうな機関長。

機関長 失礼だろう！ ノックもせずに！！

新入り いや、しましたノック。
いいやしてない。

新入り しました。
してないもん。

新入り え？

機関長 僕には聞こえなかったもん。ノックしてないもんしてないもんしてないもん。
わーん、ばかり、うんこー！

機関長、駄々っ子のようなになる。

新入り え、えっと、あの……

と、変なリズムでノックの音。

モールス信号でH(・・・・)E(・)L(・ー・・)L(・ー・・)
O(ーー)と、通信長が入ってくる。

機関長 (元に戻って) おお、通信長。

通信長 (ジェスチャーで挨拶) 「やあ」

機関長 連絡、あったか？

通信長 (ジェスチャーで) 「まだ」

機関長 そうか。まだか。

通信長 (ジエスチャーで(以下略)) 「はい」
機関長 なんです。

通信長 「え？」

機関長 なんてまだなんだよ。

通信長 「さあ」

機関長 なんてだよなんてだよなんてだよ、なんで連絡来ないんだよー！ もう、やだやだやだやだやだやだー！！ わーん、ばかー、うんこー！

機関長、再び駄々っ子になる。

通信長、一歩下がる。

新入と目が合う。

通信長 (ジエスチャーで) 「誰？」

新入 え、あ、はじめまして。新入りの下丸子ことキャンデイです。

通信長、新入りに手旗信号を一組渡す。

新入 え、なんですか。

通信長 (ジエスチャーで) 「それで、話せ」

新入 これで、話せ・・・って何ですか。

通信長 「なんでも」

新入 なしでしょ、いまだき手旗信号なんて。無線だつてあるし、船でインターネッ卜できる時代ですよ？ 古いなー。俺ら、手旗信号とかモールスとか、学校で習ってないですもん。

通信長、怒りにわななく。

通信長 「目をつぶれ！」

新入 え、ええ？ これでいいですか？

通信長 「歯を食いしばれ！」

新入 ええと、見えません。

通信長 「歯を食いしばれ！！！」

新入 何かやつてる気配は感じるんですけど、見えてませんから。

通信長、新入りの手のひらに字を書く。

新入 ウォーター。

通信長、噛み付く。

新入 痛い痛い痛い、嘘です冗談です、いちおうお約束はやっておかなければという義務感からやっつけてしまいました。すみません。

通信長、再び新入りの手のひらに字を書く。

新入 ハ・ヲ・ク・イ・シ・バ・レ。なるほど。

新入り、歯を食いしばる。
通信長、新入りに鉄建制裁。

新入 行ってー！！ 何ですか。言ったとおりにしたじゃないですか。んだよ、こいつ。マジ切れた。平成生まれの切れ易さ、なめんじゃねえよ！！

新入り、戦闘態勢。

通信長 「・・・ー・・・」
SOS、SOS！ 緊急発進、緊急発進。大丈夫か通信長！！

機関長、新入りと通信長の間割って入って・・・

機関長 む、お前はさっきの無礼者。

(謎の短いジェスチャー) 「新入りの下丸子ことキャンディ」

通信長 そうか、新入りの下丸子ことキャンディか。

新入 短すぎるだろ、今の。

機関長 以心伝心！ 魚心あれば水心だ！

新入 意味わかんねえよ。

と、そこに通信ベルの音が鳴る。

伝声管から艦長の声

艦長 機関、全速前進！

機関長 アイアイサー！ 機関、全速前進！

新入り、ほったらかされる。

機関長、なにやらガチャガチャと機械を操作。

通信長もその操作を補助する。

新入 あ、おい、ちよつと。無視すんなよ。あの。ねえ。すみません。平成生まれの心の弱さ、なめんじゃねえぞ。ひきこもるぞ、コラア！

機関長 む！

機関長、動きが止まる。

機関長
通信長おうつつ！

通信長、機関長のところに駆け寄る。

機関長
通信長
「これ、なんだっけ？」

機関長
通信長
「はい？」
このスイッチなんだっけ？

「え？」

機関長
通信長
「なんだっけ、このスイッチ。そういえば、一回も押したこと無いんだよな。気になる。気になるぞ。・・・おい、その新発売の駄菓子。」

俺かよ。

新入
機関長
このスイッチ、なんだ。

新入
機関長
知らないっすよ。機関長に分からないのに、俺に分かるわけないじゃないですか。

機関長
若いからこそ分かるってこともあるだろう。例えば年号とかだな。学生の頃はあれだけ必死に覚えたはずなのに、いまやもう1192つくろう鎌倉幕府とかしか覚えてない。だいたい、この年に鎌倉幕府がどうなったんだ。年をとるとな、使わないものから順に忘れていくんだ。まだ覚えてるだろ、学校でたばかりなら。

新入
機関長
だって、俺甲板員ですもん、知らないですよ、機関部のことなんて。

機関長
甲板だろうが機関だろうが、同じ船だろう。

新入
機関長
だから習ってないんですよ、学校で。コースが違うんですから。機関とか技術系の専門職でしょ。

機関長
じゃあ質問のしかたを変えよう。これ、なんだと思う？

新入
機関長
なんだと思うって言われても。

機関長
これは何か、じゃなくて、なんだと思うか、だから。無責任な感じの予想でいいから。

新入
機関長
えーと、じゃあ、加速装置かな、なーんて。

機関長
そうか、加速装置か。じゃあ全速前進だし、押さなきゃな。

機関長、なんの躊躇もなくスイッチを押す。

どこからかブザー音が繰り返し聞こえてくる。

新入
通信長
わあ！！

「わあ！！」

新入
機関長
押した、押しちゃった。

機関長
押しちゃったな。

新入 なんか鳴ってますよ。
機関長 鳴ってるな。

新入 いいんですか！

機関長 わからん。何のブザーだろうな、これ。・・・まあ、いいか。俺の責任じゃないし。

新入 え？

機関長 加速装置のスイッチなんだろ、これ。

新入 SFじゃないんだから、そんなのついてるわけじゃないじゃないですか。

機関長 じゃあ、なんなんだろうな。えーと、

機関長、どこからかマニュアルを取り出して・・・

新入 あの、機関長、それ・・・。

機関長 マニュアル。操作説明書。

新入 そんなあるんならはじめから読んでくださいよ！！

機関長 だって面倒くせえんだもん。

通信長 「そうそう、面倒くさい」

機関長 えーと、これは、ああ、あったあった。大丈夫大丈夫。

新入 なんだったんですか。

機関長 自爆装置。

新入 へ？

機関長 自爆装置のスイッチ。

新入 冗談でしょ。

通信長、マニュアルを新入りに見せる。

新入 まじかよ。

機関長 そうか、自爆装置か。どうりでこれまで押したことがないはずだ。うん、まあ大丈夫だ。

新入 大丈夫じゃないでしょ。

機関長 大丈夫、大丈夫、逃げればいいだけ。

通信長 「そうそう」

追い討ちをかけるように、緊急の館内放送が入る。

「総員に告ぐ。本艦はヒトサンマルマル時をもって自沈する」

「総員退避、総員退避、至急前部甲板に集合せよ」

新入 (時計を見て) ヒトサンマルマルって、あと2分しか！

と、気がつけば機関長と通信長はさっさと脱出を開始している。

新入 うわ、待って！！ 前部甲板って、どっちですかー！！

新入り、あわてて二人の後を追う。
すれちがい、ぶつかりしながら避難する乗員。
やがて、全員が甲板に集合する。
と、そこには柱に身体を巻きつけている艦長の姿。

艦長

君たちは行け、なんだかわからんが、この艦は自爆することになった。私は艦と運命を共にする。艦長が甲板で艦とともに一卷の終わり。うん、これも語呂がいい！

甲板長

あの、行けて、ボートは？

ん？ ああ、いかん、ぼーつとして、ボート準備するの忘れた。・・・っっていうのは語呂がいいっていうより、親父ギャグだな。イマイチ。うおおおお、こんなのを最後にして沈むのは不本意だ！ 何か、何か語呂のいいのはないか！！

「自爆まで、あと10秒」

カウントダウンが刻々と進む。

航海長

うわあ、やめときやよかったこんな船のの。

操舵長

そうだね。やめときやよかったね。

通信長

「・・・――」

機関長

うわー、やだやだやだ、死にたくない死にたくない死にたくない！

甲板長

おい、鳥、さんさん餌やったんだから、助ける！ 俺を乗せて飛べ！

「5・4・3・2・1」

新入

もう駄目だー！！

と、乗組員、いっせいにクラッカーを取り出して鳴らす。

同時にマストから垂れ幕が降りてくる。

「キャンディくん、ようこそ、スタン号へ」

新入

え？

新入り以外の一同爆笑。

何がなんだか理解できていない新入り。

陽気なブラスバンドの音楽。

艦長 人参好きのエンジン担当の新人を、甲板で完全サプライズ歓迎会。いいねえ、
実にゴロがいいゴロ。
新入 是？
艦長 料理長、そんな今日のメニューは！

料理長、コックコートで登場。

料理長 人参カレーです！

艦長と料理長、親指を立ててグッドジョブ。
なんだかわけのわからない盛り上がりを見せるパーティ会場。

驚いたろ。

後悔してる？

この顔はしてるね。

「ひっかかった」

まあ、何事も勉強だな。

(笑いながら両肩をバシバシと叩く) おつかれさま。

・・・なんだ、この船。

甲板長
航海長
操舵長
通信長
機関長
料理長
新入

新入りのむなしい呟きをよそに、一層盛り上がるパーティ。

(シーン1終了)

再びあの教室。

カタカタと音をたてながら激しく回る扇風機。

男、教科書を手に・・・

男

このように、イスラム勢力の台頭によって、東ローマ帝国の弱体化に拍車がかかり、1453年、東ローマ帝国は滅亡する。えー、この年号は戦死降参東ローマと覚えるように。結果として、ヨーロッパ諸国は高い関税のかかったオスマントルコ経由でしか、交易品の取引ができなくなってしまうわけだ。そこでヨーロッパ諸国は生き残りをかけて、交易地との直接取引に乗り出す。そうはいつでも陸路ではイスラム勢力に阻まれ、たどり着けない。技術革新によって帆船での長距離航海が可能となったことから、海路での航路開拓ブームが起きるわけだ。その中心となったのはスペインとポルトガル、この二つの国。1492年、コロンブスがアメリカ航路、1498年にバスコダガマがインド航路、1522年、マゼラン一行が西回りでの地球一周航路をそれぞれ開拓する。この年号は、意欲に燃えたコロンブス、意欲はあるぞ、バスコダガマ、マゼランと、行こう夫婦で世界一周と覚えるように。

この15世紀中頃から17世紀中頃までを大航海時代と呼ぶ。

女、また目をつぶっている。

頷いているのか、居眠りしているのか、頭がコクリコクリと動く。

男

聞いているか。

聞いてます。聞いてました。

じゃあ、答えは。

ありません。

おいおい、またか。

ありません。質問がないんだから、答えなんてありません。

しただろ、質問。

されてません。15世紀中頃から17世紀中頃までを大航海時代と呼ぶ。そう

としか言われてません。

その後だよ。言ったら。

いいえ。

(ため息)・・・

世界史って、なんですか。

質問してるのは先生のほうだ。

わからないんですか。

質問の意味がよくわからないな。

世界史って、何を勉強するんですか。

女

男

女

男

女

男

女

男

女

男

女

男

女

男

女

男

男 世界の歴史だよ。
女 じゃあ世界ってなんですか。

男 世界は、世界だろ。

女 ごまかさないでください。

男 この地球上の、全ての国。

女 じゃあ、歴史ってなんですか。

男 国語の授業じゃないんだ。いい加減にしないか。

女 なんですか。

男 いったい何が知りたいんだ。

女 じゃあ、どこまでが歴史なんですか。昨日は歴史ですか？ 10年前なら歴史

男 ですか。過去が歴史に変わるのはいつですか。歴史の教科書に載ったら、それ

女 が歴史なんですか。

男 近代史・現代史は試験範囲じゃない。

女 そんなことが知りたいんじゃない。

男 そんなことを考える前に、目の前のことを考えろ。

静かな間。

女 考えられません。今につながらない歴史なんて。

男 先生の質問の答えは。

女 ありません。

男 寝てたからわからないんだろ。

女 起きてました。

男 舟こいでたろ。

女 こいでません。

男 こいでたんだよ。

女 漕いでません、舟なんて。ずっとここにいて、ずっと起きてました、私。

またしても冷たい間。

男 心、ここにあらず、か。

女 あります。身も心も。

男 どうだか。

男、必要以上に女に顔を近づけ・・・

男 虫だ。

男、女の頬に手を伸ばす。

女、その手を振り払い・・・

女 やめてください。
男 居るだろ、虫。
女 居ません。見えません、そんなの。
男 居るだろ、考え中って虫が。

男、またも指示棒を振り回す。
女、身をかわず。

男 それとも羽根の生えた、白昼夢って虫か？
女 見えません。知りません、そんな虫。
男 渦中の君には見えないかもな。
女 そんなことありません。
男 授業もうわのそらで、いったい何に熱中してるんだか。
女 してません。
男 注意力散漫だな。
女 違います。
男 見ろ、虫だ。虫だらけだ。いったいいつまで考え中だ。暗中模索で五里霧中か。

男、狂ったように指示棒を振り回す。

男 卒業したら、どうするんだ。進学か。就職か。それともフリーターか。
女 関係ありません。
男 関係ないだろう。進路相談だよ。
女 針路を操舵するんですか。操るんですか。
男 操らないから。
女 嘘だ。
男 嘘じゃないよ。
女 捕らえて、操って、それで満足ですか。
男 何を言ってるんだ。
女 騙されないぞ。私、絶対騙されませんから！

と、甲板から馬鹿陽気な声が聞こえてくる。

料理長 どうでしょうか。こだわりの人蔘カレー。
甲板長 美味しい美味い。
機関長 ちよっと人蔘が多すぎないか。
艦長 (指でグッドジョブ) いやいや、見事な新人歓迎用の人蔘カレーだ、料理長。
料理長 いやー、なかなか他の材料とのバランスが難しかったっす。
機関長 いや、バランス取れてないだろ。人蔘多すぎだろ。

料理長 人参、どうしても甘みがでちゃうからですねー。
航海長 ルーの辛味と人参の甘み、絶妙だよね。
操舵長 そうだよね。

「????」

機関長 いや、カレーの味がしないって。これじゃ人参カレーじゃなくて、カレー人参
だつて。

甲板長 うーん、馬鹿ウマ。おかわり！

艦長 私もだ。

航海長 あ、私も。

操舵長 同じく。

料理長 はいはい！

機関長 こいつら全員味覚障害か？

機関長、新入りの所へ移動。

機関長 おい、駄菓子。

新入 キャンディです。

機関長 人参をやろう。

新入 いや、もう充分つす。

機関長 聞いたぞ、お前、人参好きなんだろ。

新入 違います、人参は普通です。

機関長 そうかそうか人参好きか。

新入 人の話聞いてますか？

機関長 俺は人参が嫌いだ。

新入 聞いてません。

機関長 ついでにピーマンも嫌いだ。

新入 だから聞いてないですつて。

機関長 まあ遠慮するな。

新入 遠慮じゃなくて、本当にいららないんです。

機関長、人参を全て新入りの皿に投入。

機関長 かわりに肉をよこせ。

機関長、肉をすべて強奪。

新入 ああああ、もう！ なんだこの食べ物。ライスより人参の方が全然多いよ、こ
れ。

通信長、あまり箸が進んでいない。

料理長、おかわりを配りながら・・・

料理長 (通信長に) あの、どうですか？

通信長 「死ぬほど甘い」

料理長 死ぬほど、美味い。

通信長、「違う」のリアクション。

料理長 ありがとうございます！ では、ウンチク語らせていただきます。

通信長 「おいおい」

機関長・新入り・通信長以外の一同、拍手。

料理長 人参は日本一の生産量を誇る、北海道の富良野産。

航海長 富良野の名産って、田中邦衛じゃないんだ。

操舵長 いや、キャプ翼の松山くんでしょ。

航海長 ああ、心臓悪いのにサツカーやってる無茶なキャラクターね。

料理長 たまねぎは日本一の生産量を誇る、北海道の北見産。

航海長 北見・・・ってどこ。

操舵長 知ってる、なんか北のほう。

航海長 なんかいメージで適当に言ってるない？

料理長 ジャガイモは日本一の生産量を誇る、北海道の十勝産。

航海長 十勝って、牛以外もいるんだ。

操舵長 チーズ以外あるんだ。

航海長 なんか北海道ばかりだね。

料理長 実家と親戚から山ほど送ってきたんで。

航海長 ありもんじゃん。

操舵長 家から持ってきたんじゃん。

料理長 そこにサニーで買ったりんごと蜂蜜をたっぷり。

航海長 サニーはりんごと蜂蜜の産地？

操舵長 マルキョウよりはいいい材料なんじゃないかな。

航海長 急にこだわりのレベルが落ちてきたね。

料理長 そしてルウはと30種類以上のスパイスをブレンドした・・・

一同 おー！

料理長 というグリコ熟カレーに、S&Bカレーの王子さまとハウスバーモントカレーを1・・・8でブレンド。

機関長 それほとんどバーモントカレーだろ。というか、バーモントカレー自体にりんごと蜂蜜入ってるのに、追加でりんごと蜂蜜って、ちよつと入りすぎだろ。

料理長 そして肉は！

艦長
料理長
艦長
甲板長
料理長
艦長
甲板長
料理長
一同
料理長

うむ。
肉は入れてません。
何を言ってるんだ。入ってるじゃないか。料理長。
そうそう。
いれてません。
入ってるよな。
美味しいですよね。
そして、隠し味。
おー！
隠し味にフナムシでとった出汁を加えましたー。

一同、カレーを嘔き出す。

航海長
操舵長
機関長
通信長
甲板長
一同
甲板長
一同
甲板長
一同
料理長

フナムシ？
あの、岩場にウジャウジャいる。
ゴジラに巨大化して出てきた。
「☆×*！@？」
ちよつと、あの昆虫に似てる。
うわ。
台所とかに出没するあの虫に似てる。
わわわー。
ゴキバオとかコンバットとかで退治できる。
ひゃー。
ゴキブリに似てる、あのフナムシか！
ギャー！！
大丈夫ですよ、シャコの仲間なんだから。

一同、慄然。

料理長
艦長
甲板長
艦長
機関長
甲艦機
料理長
甲板長
艦長
機関長
甲艦機
一同
料理長

出汁だけじゃなくて、身も美味しいんですよ。
身？
身って、もしかして
もしかして
もしかしなくても
この肉かー！！
はい。
おー！
えー！
うー！
うわーん！！

甲板長　もうシヤコ食えねえ。心から好きだったのに。グッバイ、シヤコ。♪心から好きだよシヤコ。

航海長　うわー、失敗した。聞かなきゃよかった。

操舵長　そうだね。聞かなきゃよかったね。

新入　聞かなきゃよかったじゃなくて、食わなきゃよかった、でしょ。

航海長　いや、まあ知らなきゃいいのよ。それはそれで。

操舵長　そうそう。秘密は秘密として、隠し通してくれれば。

航海長　中途半端に秘密が明かされるから

操舵長　こういうことになるわけよ。

機関長　飲み物、何か飲み物。

艦長　水、水をくれ。H2Oだ。

甲板長　思い出がいつぱい、思い出がいつぱい。

艦長、甲板長、機関長、口直しにその辺のものを探る。
と、ファイブミニが出てくる。

艦長　よし、口直しだ、諸君。乾杯。

甲・機　乾杯っ！

料理長　虫って言えばですね、天然着色料でコチニールとか、カルミン酸色素ってあるんですけど、これってサボテンの裏にひっついてるエンジムシっていう虫からとるんですよ。

「へー」

通信長　結構いろんなものに入ってるんですよ。知らないうちにみんな食べてるんですよ、虫。

「例えば？」

料理長　ソーセージとかハムとかの赤いとか、イチゴ牛乳のピンク色とか、ファイブミニのオレンジ色とか。

艦長　さん、はい。

(吹き出す)ぶっっ！！

三人の吹き出したファイブミニが空に虹をかける。

艦長、甲板長、機関長、なかばヤケクソ。

料理長　いいじゃないですか、食って美味ければ。ミミズだってオケラだってアメンボだって。

甲板長　それは違うだろ。友達だろう、友達。

機関長　友達を食うのか、お前は。

艦長　それはたどり着くところ、ものすごく危険な思想になりはしまいか。

料理長　いやまあ、そういう究極の食材はおいといてもですよ。

甲板長　食材っていうな、食材って。

料理長

普通に食べてるウニとかイクラとかナマコとか、冷静になってみると結構気持ち悪いでしょ。海老とか蟹とか喜んで食べるけど、よく見たら怖いっすよ。絶対、地球外から来た生物ですよ、あれは。

艦長

艦長・甲板長・機関長、甲板でをカレー食って、阿鼻叫喚。語呂はいいが、気分が悪い。よし、こういう時は、忘れよう。何もかも。

艦長、甲板長、機関長、その辺で各々現実逃避。

料理長

美味しいのになあ。

料理長、カレーを片付けにかかる。

新入

あの、ちょっと。

航海長

ん？

新入

素朴な疑問があるんですけど、いいですか。

航海長

何？

新入

ひよっとしなくても、乗組員、全員ここにいますよね。

航海長

いるね。

新入

ということは、逆に言えば、中には誰も居ないわけですよね。

航海長

当たり前じゃない。

新入

ええええええ？

航海長

どうかした？

新入

いいんですかね。

操舵長

何が？

新入

誰も居なくていいんですかね。

高会長

どういう意味？

新入

あの。ぶっちゃけ今、誰が操船してるんですか、この船。

操舵長

誰も操船してません。とか言ってみたりして。

問。

艦長が復活してすっ飛んでくる。

艦長

操舵長つつっ！！

操舵長

はいつっ！！

艦長

目をつぶれ！

操舵長

はいつっ！！

艦長

歯を食いしばれっ！！

操舵長

はいつっ！！

艦長

(両肩をバシバシ叩きながら) いい、実にいい。シンプルだが味がある。

操舵長

そうですか！

艦長　しかし、まだ改良の余地があるな。いかんせん誰も操船してません。とかだな。
語呂もいいし、5・7・7・5でリズムもいい。
そうですね。
操舵長　さすが艦長。

と、突然ドカーンと、激しい衝突音。
大きく揺れる船。
甲板上の人々、一斉に同一方向に転倒。

艦長　なんだ、どうした！
新入　冰山？
甲板長　鯨か？
航海長　岩礁？
操舵長　小型船？
通信長　「潜水艦？」
機関長　まさか、巨大フナムシか。

料理長、甲板に戻ってくる。

艦長　どうなってるんだ。担当、状況を報告せよ。
甲板長　（航海長に）報告！
航海長　（操舵長に）報告だったよ。
操舵長　（機関長に）報告だそうです。
機関長　（通信長に）おい、報告だ。
通信長　（新入りに）「報告して」
新入　（料理長に）あ、報告お願いします。
料理長　え、何の？
新入　今の、ドーンってやつです。
料理長　残念ながら、先ほどのこだわりの人参カレー、鍋ごと引っくり返り、全滅です。
その他、カレー皿3枚が割れ、2枚が欠けましたが、こちらの2枚はまだ使えます。以上です。

全員、心の中で万歳三唱。

艦長　そうじゃない。今の衝撃はなんだ。被害はどうなってる。
料理長　そんなの、私に聞かれましたも。
甲板長　おい、担当誰だ。俺は甲板しか知らないぞ。
航海長　私はコースを決めるだけ。
操舵長　私、舵を切るだけ。
機関長　俺は機関のことしか分からん。

通信長 「通信ですから関係ないです」

全員、無責任にその辺にバラける。

艦長 ということは、担当は君かね。キャンディ君。
新入 あ、俺、ただの甲板員なんですけど。
艦長 そうはいつても、誰も担当じゃないと言つとる。君しか残ってない。
新入 なんすか、これもドッキリですか、それとも陰湿なイジメですか。
艦長 命令だ、キャンディ君、君が担当するように。
新入 アイアイサー。

新入り、甲板の端から衝撃音のしたあたりを覗き込む。

新入 えー、艦長。
艦長 どうした。
新入 なんか、泡がボコボコでてます。
艦長 どうしてだ。
新入 分かりません。
艦長 そんな報告があるか。それともなにか、誰かがバブを海に投げ込んだとでも言うのかね。
新入 そんな細かい感じの泡じゃないです。こう、もつとボコボコつて。
艦長 じゃあ、誰かがポット洗浄中でも投げこんだとも言うのかね。
新入 いや、投げ込まないでしょ。
艦長 泡が出ているのは現象だ。私が知りたいのは、原因、原因なんだよ、キャンディ君。

新入り、必死に海面に目を凝らす。

新入 ええと、なんか穴があいてるっぽいんです。
艦長 どこに。
新入 あの、この船に。で、そこから泡が。
艦長 そうか。なるほど。
新入 あの、大丈夫なんですか。
艦長 ああ、大丈夫だ。
新入 なんか、この船、ちよつと傾いてきてないですか？
艦長 心配するな、キャンディ君。この艦は世界一安全だ。何故なら、(間) まだ一度も沈んだことが無い。
新入 アメリカンジョークを言ってる場合ですか。
甲板長 大丈夫だよ。外壁一枚壊れただけじゃ、沈まないよ。
新入 じゃあ、もう一枚中まで壊れてたら？

甲板長 沈むな。
新入 うーわー。
甲板長 ・・・艦長、ちょっとお話が。
艦長 なんだね。
甲板長 ちよつと、向こうへ。

艦長、甲板長と甲板の隅でなにやらひそひそ話。
二人、ものすごく深刻な表情。
航海長と操舵長が、新入りのところに寄ってくる。

航海長 あわてないあわてない。
操舵長 一休み一休み。
新入 どうしてそんなに落ち着いてんですか。
航海長 どうしてそんなに慌ててんの。
新入 だって、穴が開いて、空気がボコボコって。空気が出て行くってことは、水が入ってきてるってことですよね。
航海長 だね。
新入 だねって。水が入りっぱなしだったら、沈んじゃうじゃないですか。なんか艦長たち、あちちでひそひそ話してるし、本当はすっげえヤバいんじゃないんですか、これ。
航海長 大丈夫大丈夫。
操舵長 しずまないしずまない。
新入 意味が分からない。

航海長 船って、そう簡単に沈まないように出来てるから。
新入 でも沈むでしょ。タイタニックとか。
航海長 あれは、ほら、客船だったから。
新入 関係あるんですか。
航海長 まあ、客船って、外壁もそんなに厚くないし。だいたい、100年近く前だよ、あの話。
操舵長 そんな昔の船でも、氷山にぶつかって、穴が開いて、それでも完全に沈没するまで3時間近くは持つわけだからさ。余裕、余裕。

新入り、落ち着かずソワソワしている。
艦長と甲板長、戻ってきて・・・。

艦長 大事な話がある。全員集合するように。
甲板長 全員集合！

全員、甲板上に整列。

艦長 玉手航海長。
航海長 はい。
艦長 加賀谷操舵長。
操舵長 はい。
機関長 黒部機関長。
機関長 はい。
艦長 (なにかジェスチャー) 通信長。
通信長 「はい」
艦長 以上の四名は、榊原甲板長の指示のもと、修復作業にかかるように。急げ、時間がないぞ。
五人 アイアイサー！
甲板長 じゃあ、こっちに。

五人、足早に艦内に消える。

新入 やっぱり。

新入り、不安MAX状態。

新入 (料理長に) やばいんすかね。やっぱりやばいんすかね。
料理長 え？ 何が？
新入 穴ですよ、泡ですよ、やっぱり沈んじゃうんじや・・・
艦長 宗料理長
料理長 はい。
艦長 ちよつと艦長室へ。
料理長 あ、はいはい。
新入 あの、俺は。
艦長 キャンデイクン。君はここに残れ。
新入 え、でも、あの、ちよつと。
艦長 なんだね。
新入 あの、俺、何をしてたらいいんでしょうか。
艦長 (いい笑顔で) 祈るんだ。
新入 ちよ、ええつ、なんですかそれ。

料理長、艦長とともに艦内に消える。

一人甲板上に残される新入り。

時折、泡の出ている箇所を見たりと落ち着かない。

新入 大丈夫かな。みんな何やってんだろ。まさか俺おいて、逃げたりしてないよな。もしかしてこれもドッキリ？ うわあ、もう何がなんだかわかんねえよ。

鳥、騒がしく鳴く。

新入 ああ、もう、うるせえなあ、鳥！ シツ、シツ！ 飛べ！ どっか行け！

鳥、一斉に飛び立つ。

新入 あれ、いなくなった。もしかして通じたのかな。俺はナウシカ？ それともドリトル先生？ レベルが上がって、特殊能力を身につけた？ よし、へい、カンバツク、鳥！

鳥、戻ってこない。

新入 こねえよ。くるわけねえか。それにしても、なんかあっさりいなくなったな。

と、そこに「チュー」とネズミの鳴き声。

新入 うわ、ネズミだ。

ネズミ、続々増える。

と、我先に海に次々飛び込む。

新入 うわ、なにこれ・・・これは噂に聞く、あれか。沈む船から逃げ出すネズミというやつか。駄目じゃん。全然駄目じゃん。ていうか多すぎだろ。なに積んだんだ、この船。ネズミ自体が荷物かよ。怖ええ、数の暴力だよ。マウスの複数形はマイス、フィッシュは複数形でもフィッシュって何言ってたんだ、俺。

新入り、かなりテンパっている。

と、突然の雷鳴。

一天にわかには掻き曇り、強い雨が甲板を叩く。
上を向いていた新入りの口に雨粒が飛び込む。

新入 ペツペツ、しよっぱい。雨がしよっぱい。

激しい波が船を揺らす。

ゴロゴロと甲板上を転がる新入り。

新入 何、これ。危ないって、死んじゃうって。マジで！ 俺。ひよつとして生贄か
なんか？

更に激しい波。

新入　　うわあ！

勢いで、海に転落しそうになる新入り。

新入　　うわ、駄目、絶対駄目。沈むって。沈むって！　艦長、艦長！

不安が最高潮に達した新入り、あわてて艦内に下りていく。

(シーン2終了)

夕立の音。

遠くで雷鳴が聞こえる。

そこはまたあの教室。

ポタポタと、雨漏りの音がする。

女、その音の方へ目を向ける。

・ ・ ・ 雨漏りか。

雨？

どうみても雨漏りだろ。たまらんな。ただでさえ蒸し暑いつてのに。

男、暑そうにシャツのボタンをいくつか外す。

水漏れじゃなくて？

国語も補習受けるか？

漏れているのは、雨？

雨だろ。

水じゃなくて。

雨だ。

声じゃなくて？

何を言ってるんだ。

秘密でもなくて？

何を、言ってるんだ。

静かな間。

聞いたんです。

何を。

噂を。

何の。

あなたの。

先生の。

いいえ、あなたの。

どんな。

秘密を。

何の。

それから声を。

声？

漏れてくる声と、秘密を。

男 女 男

・・・授業に戻るぞ。
寝たんでしょ。

その後、無敵艦隊ともよばれるほど、強力な海軍力を誇ったスペインではあるが、1588年、アルマダの海戦において、イギリスに敗北。以降、スペインのハプスブルク王朝は弱体化していく。この年号はアルマダの、以後はパッとしない、ハプスブルクと覚えるように。
無視ですか。

男 女

その後、三十年戦争にも敗れたスペイン・ハプスブルク王朝は、徐々に領土への支配力を失っていく。1641年にポルトガル、1648年オランダがスペインから独立し・・・

女、立ち上がり、ツカツカと男のところへ。

席に戻りなさい。

男 女 男

・・・
授業中だぞ。

女、いきなり男の頬を張り飛ばす。

女

虫が。

音楽。

しばらくの沈黙。

と、突然の雷鳴。

新入りが艦長室を探しながら通路を駆け抜けていく。

新入

艦長、どこですか。艦長！

と、部屋の中から声がする。

聞き耳をたてる新入り。

甲板長

駄目だ。

機関長

ヤバイな。

航海長

まずいよね。

操舵長

そうだね、まずいよね。

通信長

(お手上げ)

甲板長

どうするよ。

機関長

どうしようもないな。

航海長

だからって、あのままにしとくわけにもいかないでしょ。

操舵長

そうだね。

通信長 (考えるポーズ)
甲板長 諦める、か。

新入り、部屋に入ってくる。

新入り あの、すみません！

機関長 失礼だろう、ノックもせずに！！

新入り あ、すみません。今はしませんでした。

機関長 いいや、さつきもしなかった。

新入り さつきはしました。

機関長 してないもん。

新入り (駄々っ子モードに入りそうなのを察知して) あ、いや、してないです。してなくていいです。すみませんでした。

機関長 やっぱりしてなかったんじゃないか。馬鹿者！

新入り くそ、なんだこの不要な忍耐は。

甲板長 どうした。甲板の方はいいのか？

新入り あの、やっぱり、沈むんでしようか？

甲板長 何言ってるんだ？

新入り あ、聞いてちゃったんです。声が漏れてくるのを。駄目なんでしょ、ヤバイんでしょ。まずいんでしょ。

甲板長 たしかにまずい状況だ。

新入り やっぱり。

機関長 ちよつと範囲が広すぎるな。

新入り 穴のですか。

航海長 かなり深いところまで浸み込んでるし。

新入り 水がですか。

通信長 (不安をおおるようなジェスチャー)

新入り なんかわかんないですけど、ひどいんですね。

操舵長 なにより臭いがね。

新入り 臭い？

甲板長 とれないんだよ、汚れが。

新入り 汚れ？

機関長 ほとんど油だしな。

新入り え、油も漏れてるんですか？

航海長 シャツにちよつとついただけでも落ちにくいのに、あの量だからね。

新入り はい？

操舵長 汚れも落ちないし、臭いも取れないし。

新入り ええと？

通信長 「そうそう」

甲板長 やはり、あきらめるしかないか。よし、艦長には俺から報告しよう。

新入 甲の、いったい何の話をしてるんでしょうか。
甲板長 カレーだよ、カレー。
新入 は？
甲板長 さつき、料理長がこぼしたカレー。もうえらい広範囲に飛び散ってるし、板の隙間とか、絨毯とかに浸み込んでるし。掃除関係はだいたい甲板に仕事が回ってくるからな。汚れが浸み込む前にさつきとやつちまおうと思ったんだが。駄目だ、どうにもならん。
機関長 そのこの通路の先なんだが、あまりに臭いが酷いんで、ここで作戦会議中ってわけだ。
航海長 あれはカレーだけの臭いじゃないよね。
操舵長 そうだね。なんか磯臭いもんね。
通信長 「フナムシ、フナムシ」
甲板長 出汁の臭いだな。
新入 あの、新入りが生意気な口をきくようで申し訳ないんですが、もっと優先すべきことがありはしないでしょうか。
一同 ？
新入 あるでしょ、もっと大事なことが。
甲板長 そうはいつてもまずは拭き掃除からだろ。
新入 違いますよ、カレーの掃除の仕方じゃなくて。もっと重大なのがあるでしょ。
航海長 ああ、泡？
操舵長 ああ、穴？
新入 そうですよ。てっきりそっちの修理とかに行ったのかと思ったら、カレーの後始末ですか。どうなってるんですか、プライオリティは。
甲板長 プ、プライオリティ？
機関長 (ひそひそ) オリジナリティとは違うよな。
航海長 (ひそひそ) なんかに紅茶の名前っぽくない？ ジュアールティとか。
操舵長 (ひそひそ) そうだね。いや、そうかな？
甲板長 (ひそひそ) わかった。(なんでもいいです) プラスイオンリトバルスキーの略。
機関長 (ひそひそ) そうだとしたら意味はなんだよ。
航海長 (ひそひそ) マイナスイオンの反対だから不健康？
操舵長 (ひそひそ) 不健康なリトバルスキーって何？
通信長 (なんか説明しているが伝わらない)
四人 ああ、もう、わかんねえよ。
新入 優先順位のことですよ。
甲板長 じゃあ、そう言えよ。
新入 やばいんですって。鳥はいなくなるし、ネズミは逃げるし、雷鳴るし、雨は降るし、すっげえ揺れるし。
甲板長 まあ落ち着け。何をいつてるのかさっぱりわからん。雨が降れば鳥はいなくなるし、波が高けりゃ、船も揺れるさ。
新入 じゃあ、ネズミは。

甲板長　ネズミ？
新入　ものすごい数のネズミが船から逃げ出して、海にドブドブン飛び込んで。みたんですから、俺。
甲板長　暑いからな。水浴びかなんかだろ。
新入　答えになってない。
甲板長　よし、戻るか。
新入　だから、ネズミについて納得できる答えをくださいよ。
甲板長　（鼻歌）僕らの愉快なリーダーはく
新入　無視かよ。

その場がなんとなく無責任な感じの空気につつまれる。

新入　・・・あの、俺、行きます。見てきます。
通信長　「×」
航海長　ああ、駄目駄目。
操舵長　船倉は立ち入り禁止。
新入　どうしてですか。
機関長　どうしてって、それはお前。・・・なんでだっけ？
甲板長＃　それは、あれだよ、出るからだよ。
通信長＃　（なにか脅かすジェスチャー）
航海長　え？　危険物積んでるからでしょ？
操舵長　扉が開かないからって聞いたけど。
機関長　梯子が腐ってて危ないからじゃなかったか？
甲板長＃　船倉に行ったまま、帰ってこなかった乗組員が山のようにいるって話だ。
通信長＃　（更に脅かすジェスチャー）
航海長　なんか、とにかく危ないんですよ？
操舵長　あれ、扉が封印してあるんだっけ？
機関長　いや、通路が壊れてるんじゃないか？
新入　結局、誰も知らないんですか。

沈黙。

新入　どうしてですか。
甲板長　どうしてって、船倉とか、行かないしな。
機関長　なあ。
航海長　ねえ。
操舵長　うん。
通信長　「うんうん」
新入　行かないって、同じ船でしょ。
甲板長　同じ船だけどさ。

航海長 同じ地球でも知らない国あるじゃん。チャド共和国とか。
操舵長 え、それどこ？
航海長 アフリカの真ん中ぐらい。
操舵長 へー。
航海長 ちなみにチャド共和国の首都は「ンジャメナ」。世界の首都の中で唯一ンから始まる地名です。
操舵長 へー。
機関長 へー。
通信長 「へー」
甲板長 がってん。がってん。
新入 いや、規模が違うでしょ、世界とこの船じゃ。
操舵長 同じ会社でも知らない人いるじゃん。
航海長 いるいる、そういう人。
機関長 影の薄くい奴な。
通信長 「うんうん」
甲板長 ん？ 今何か思い出しかけたような気がするが。まあいいや。
新入 ごまかせないてください。
機関長 お前、アパートの隣の部屋に誰が住んでるのか知らないだろ。
新入 いやまあなんとなくは知ってますよ。お隣ぐらいいは。
機関長 じゃあ、下の部屋に誰が住んでるか知らないだろ。
新入 なんて俺がアパートの2階に住んでるって知ってるんですか。気持ち悪いなあ。
機関長 個人情報ダダ漏れじゃん。
新入 知らないだろ、誰が住んでるか。
機関長 ……はい。
新入 なのに、俺たちが船倉の立ち入り禁止の理由を知らないことについて、とやかく言えるというのか？
新入 それとこれとは話が別でしょ。
甲板長 (アドリブで) では、大阪では串カツをソースに二度漬けしちゃいけない理由はなんだ。
新入 知らないですよ。
甲板長 大阪人のくせに。
新入 違いますよ。
航海長 (なんでもいいです) じゃあ、信号の緑が進めな理由は何？
新入 知らないですよ。
航海長 知ったかぶり？
新入 じゃあ、答えしってるんですか！
操舵長 (ご自由にどうぞ) 霊柩車が通るときに親指を隠すのはどうして？
新入 それは確か
操舵長 ブブー、時間切れ。
新入 いつからクイズになったんですか。

機関長 (お任せします) エスカレーターは、どうして左側に立つんだ。
新入 えっと、それはですね
機関長 俺は右にしか立たん。
新入 意味が分からない。
通信長 (頼みます) 「わけのわからない問題」
新入 え? なんすか、それ。
通信長 「ブブー!」
新入 訳がわからない。

いつの間にか艦長と料理長もその輪に加わっている。

艦長 (よろしくおねがいします) どうしてヤマトはイスカンドルまでいきなりワープで行かなかったんだ。
新入 ちよっと、あの・・・
艦長 帰りはあんなに早く帰ってきたのに。25話かけて行って、帰りはたったの1話だぞ。納得がいかん。
新入 ああ、もう!!
料理長 (僕はもうネタ切れです) どうして劇団の主宰で男の人はみんなデブになるんですか。
新入 異議有り! じゃなくて、いつの間に。
艦長 おおよそ20秒ほど前に。
料理長 どさくさにまぎれて。
新入 なんか、全力ではぐらかさそうとしてないですか?
艦長 そんなことはない。船倉が立ち入り禁止な理由だろう。それはだな。

間。

艦長 危険だからだ。
新入 だから、何が危ないんですか。
艦長 船倉は危ないにきまつとるだろう。
新入 ?
艦長 空爆、スタローン、地雷、シュワルツネッカー、戦車、
新入 駄洒落かよ!!
艦長 戦争を知らない子供達を知らない子供達は、船倉のことなど知らなくてよろしい。
新入 よくないですよ。いくら何時間か持つっていつても、こうしてる間にも水はジャンジャン入ってきてるかもしれないし。
艦長 (いい笑顔で) 大丈夫だよ、キャンディくん!
新入 なんてそんないい笑顔が出るんですか。
艦長 この船は世界一安全だ。

新入 艦長 アメリカンジョークはもういいですから。
新入 艦長 違うぞ、キャンディ君。「何故ならまだ一度も沈んだことがない」とか、
新入 艦長 そんな毛唐のようなジョークは言わんよ。
新入 艦長 いや、言った。さっき思いつきり言った。
新入 艦長 この船の名前は？
新入 艦長 スタン号・・・ですよね。
新入 艦長 その通り。
新入 艦長 それが何か関係あるんですか。
新入 艦長 では、この船はなんだ。
新入 艦長 なんだって。
新入 艦長 この船のように、帆を張って進む船をなんと言う。
新入 艦長 帆船、ですか。
新入 艦長 そう。だから沈まない。
新入 艦長 はい？
新入 艦長 帆船だけに、な。(笑い)ククククク。
新入 艦長 反戦、ノーウオーだから安全？
新入 艦長 馬鹿ものがあつっ！！

艦長、激怒。

新入 艦長 目をつぶれ！
新入 艦長 はい！
新入 艦長 歯を食いしばれ！
新入 艦長 はい！
新入 艦長 両手を上に上げて
新入 艦長 はい！
新入 艦長 背伸びの運動！
新入 艦長 さん、はい。

艦長、新入りに膝カックン。

新入 艦長 (顔からモロに落ちた) 痛ってえ！！！！
新入 艦長 帆船だからノーウオーだと？ この社民党め。そんなオヤジギャグで世界平和
新入 艦長 を語るな。この船はスタン号。そして、帆船だ。その昔、そのあまりの強さに、
新入 艦長 不沈艦のニックネームで呼ばれたプロレスラーが居た。テキサス州ナックシテ
新入 艦長 イ出身・195センチ、140キロ。スタン・ハンセン。

一同、テキサスロングホーン

一同 ウィー！！

スタンハンセンのテーマ「サンライズ」が響き渡る。
舞台上は突然のウエスタンリアート祭り。
うなる左腕。吹っ飛ぶ新入り。
ロープに振られてもう一度。
三度目のダブルリアットが自爆。
大乱闘。
そのドサクサにまぎれて、新入りは船倉を指し脱出。

艦長 新入りがいないぞ。

ざわつく一同。

艦長 いかん。誰か止めろ！
甲板長 おい、誰か。
機関長 行けよ。
航海長 行けよ。
操舵長 行けよ。
通信長 行っとく？
料理長 「GO！」
艦長 ほらほら、行かないと。
甲板長 どうした、早く行かないか！
機関長 急いで。
航海長 至急だ。
操舵長 急げよ。
通信長 急いどく？
料理長 「HURRY！」
艦長 ほらほら、急がないと。
甲板長 何をやっとするんだ、担当は誰だ。
機関長 甲板は上ですから、下のことは。
航海長 船倉には機関は無い。
操舵長 針路にも関係ないし。
通信長 操舵にも関係ないです。
料理長 「無論、通信も」
艦長 あ、そろそろ夕食の仕込みが。
甲板長 なんだ、この見事なお役所風たらい回しは。
通信長 だって、出るんですよ。
航海長 「これが」
操舵長 危険物積んでたら危ないじゃないですか。
機関長 扉が開かないんですね。
甲板長 梯子が腐ってたら、危険でしょう。

料理長 あの、そろそろ夕食の仕込みが。
艦長 ええい、しょうがない。みんなで行くぞ。

一同 アイアイサー。
甲板長 どうぞお先に。

通信長 「遠慮します」

航海長 いやいや。

操舵長 まあまあ。

機関長 ほらほら。

料理長 あらあら。

艦長 ええい、早く進め！ 鬱陶しい。気をつけ。前に倣え。身長順に整列！

一同、身長順にすばやく入れ替わる。

前の人 うわ、最前列。

艦長 各長の身長順でいきまちょう。よし、絶好調。久々に語呂がいいゴロ。

甲板長 無理矢理だよ。

艦長 前へ、進め！

グレイシー一族のようになって船倉に向かう一同。

入れ替わりに新入りが通路を横断。

新入 えっと、こつちかな。

新入り、あたりをキョロキョロと見回しながら、更に先に進む。

入れ替わりに、艦長以下の一同が登場。

艦長 急げ、全速前進！

機関長 全速前進！

一同、スピードを上げて前進。

再度入れ替わりに新入りが登場。

新入 本当にこつちでいいのかな。なんか、さつきから同じ所をグルグル回ってるよ
うな気がするけど。だいたい、なんで俺息が切れてんだ。

と、そこに鉄の軋む音が聞こえる。

新入 なんの音だろ。気味悪いな。

小さな爆発音とともに、艦内の明かりが全て消える。

新入

わあ！！なんだこれ。大丈夫かな。いよいよやばいんじゃないの、この状況。どうするよ、俺。

と、そこに艦長一行が追いついてきた様子。
闇の中、息を潜める新入り。

操舵長

艦長、真っ暗です。

艦長

うむ、暗いな。これが本当の暗中模索。などと言ってる場合ではないな。おい、誰か灯りを。

甲板長

おい、誰か、灯り。

航海長

灯り、お願いしまーす。

操舵長

灯り一丁。

機関長

誰だ、担当。

通信長

「担当は？」

料理長

私じゃないことだけは確かです。

艦長

もういい。私がつける。

甲板長

あ、じゃあ私も。

航海長

私も。

操舵長

私も。

機関長

俺も。

料理長

(チャッカマンで) 私も。

通信長

「私も」

艦長

まぶしい！！暑苦しい。(チャッカマンの炎が近づいた) 熱っ！こんなにた

甲板長

あ、じゃあ私も。

航海長

私も。

操舵長

私も。

機関長

俺も。

料理長

私も。

通信長

「私も」

艦長

全員消すんじゃない。誰かつける。

一同

アイアイサー。

電気、つかず。

艦長

榊原甲板長！

甲板長

あれ、電池が？

航海長

あれ、接触が。

操舵長

あれ、どつかいった。

機関長 あれ、スイッチどこだっけ。
料理長 ガスが切れました。
通信長 「球が切れました」
艦長 もういい、私がつける。

電気、つかず。

艦長 む、つかない。暗中模索の搜索中、懐中電灯故障中。よし、満足だ。しかたない。このまま前進だ。機関、微速前進！

機関長 機関、微速前進。

艦長 前方に注意せよ。警笛鳴らせ。

通信長 「笛を吹いて」ピー」

艦長 この雰囲気は、あれだな。修学旅行の消灯後のような雰囲気だな。

甲板長 秘密告白大会でもやりますか。

などと言いながら、一旦退場。

新入り、再登場。

新入 ふう。うわ、カレー臭え。っていうかフナムシ臭え！ ここが例の地点か。一応、前には進んでるんだな。よし。

新入り、退場。

艦長一行、再登場。

甲板長 む、ここは。

機関長 この臭いは。

航海長 カレー臭い。

操舵長 そのうえ磯臭い。

「×」

通信長 いい香りなのになあ。

甲板長 艦長、報告が遅れましたが、カレーの清掃、挫折いたしました。申し訳ありません。

艦長 報告するまでも無く、臭いで分かる。封印したはずの記憶の扉を揺さぶるような、危険な臭いだ。

料理長 美味しかったのになあ。

一同 だまらっしゃい！

艦長一行、退場。

新入り、再登場。

新入 あれ。行き止まり・・・いや、違う、ドアだ。

重たく軋む扉を押し開けようとする新入り。

扉を開けた瞬間、扉の向こうから水が溢れ出してくる。

新入りの足元を水が濡らす。

灯りが戻ってくる。

雨のような漏水。

そこには、男の姿。

男 誰だ。

新入 え・・・？

男 授業中だ。出て行きなさい。

無人の机に向かって何かを呟いている男。

男

(小声で) このように、船舶の歴史は、国家間の争いの歴史としても語る事ができる。より速く、より遠くへ。それが富を産み、同時に争いを生んだ。逆説的ではあるが、人は、競争という名の争いの中でしか、新たなものを生み出すことができないのかもしれない。それは目的地のない旅のようなものだ。旅立つ必要もなければ、旅を終わらせる必要も無い。だって、君を追い立てるものは、何も無いんだから。

新入

男 虫だ。

男、いきなり新入りに向かって指示棒を振り下ろす。
すれすれで身をかわず新入り。

新入

男 うわっ。

無神経なお前らを見てるとな、無性に腹が立つんだよ。

男、狂ったように指示棒を振り回す。

男

男 そうしていつまでも考え中。モラトリアムの真っ最中か。

新入

男 ちよ、ちよっと！

ちよっと競って争って、ようやくここまでたどり着いたのに。お前らのような奴が、全てを蝕み腐らせていくんだ。寄生虫め、物乞いめ。それならそれらしく、筵に座って金でも物でも無心しろ。虫唾が走る。虫唾が走るんだよ。

男、新入りに掴みかかる。

新入り、それを掴み返して・・・

新入
なんだよ、アンタ。黙って聞いてりや、人のことを虫だの何だの。頭おかしいんじゃないか！

新入り、男に掴みかかるが、簡単にかわされる。
男、新入りの鳩尾に激しく蹴りを入れる。
動けない新入り。

男
どうした、もう虫の息か。
・・・

男、更に2く3発、新入りを蹴り飛ばす。

男
黙って先生の言う通りにしていればいいんだ。それが君のためなんだから。

突如、汽笛の音が響き渡る。

と、船の舳先に女の姿。

その姿は、船首のフィギュアヘッド（船首像）のようにも見える。

席に戻りなさい。

・・・

聞こえないのか。

あなたが右を向けといえれば向き、走れといえれば走った。全てあなたの言うように、あなたの思い通りに。

君のためなんだ。

嘘だ。

嘘じゃない。

寝たんですよ。

違う。

あの夜、あなたは私の身体に大きな傷を残した。

寝てない。眠ってなんかいない。

あの航海の記憶は。

航海などしていない。

悔やんでいるの？

悔やんでない。

そして、まだ、逃げ続けているんでしょ。

・・・

ねえ、船長。

と、遅れて艦長一行が部屋に飛び込んでくる。

艦長 船長！
新入 ……船長？
甲板長 こりやいかん。

部屋の様子を一瞥するや、艦長以外の全員が漏水の修理に向かう。

男 ……私を船長と呼ぶな。

ようやく起きあがる新入り。

新入 船長って、どういうことですか。
艦長 船倉の営倉に船長を隔離しておいたのだよ、キャンディくん。理由は……見
ての通りだ。

男 私を船長と呼ぶな。先生のいうことが聞けないのか。虫だ。虫だ。虫だ。虫だ
らけだ。五月蠅い。黙れ。静かにしろ。

男、またも指示棒を振り回す。

男、虚空をみつめたままぼんやりと立ちつくす。

その様は狂気以外のなものでもない。

艦長 ずっとこんな調子なんだよ。あの事故以来。
新入 事故？

汽笛の音。

女 あの日は、まとわりつくような霧雨でした。

女、航海日誌を手に……

女 8月25日、曇り。機関長より、船内の電源系統に異常との連絡有り。投錨し、
機関系統の修理にかかる。機関系は復帰したものの、メインコンソールが使用
不能。リーダーをバックアップ用の旧式のものに切り替え、とりあえず出航す
る。通信長より、異常電圧のため通信機器が故障との連絡あり。修理を継続さ
せる。

8月26日、夕刻より霧雨。視界は800から1000m。バックアップ用の
旧式のリーダーは、ほとんど役に立たず、目視での航行。潮の流れに乗った船
は、最大船速の27ノット、およそ時速50キロでの航行。夜間航行には危険
な速度だが、時化と昨日の機関修理のため、当初の航海計画からすでに48時
間遅れてしまっている。急がなければ。

そこは8月26日の船内か。
忙しそうに立ち働く乗組員達の姿。

甲板長 船長、前方11時方向に船影。距離およそ1000。速度およそ20ノット。
こちらに向かっています。

航海長 航海長。

航海長 (計算して) 進路、交差します。

男 回避行動に入る。2時方向へ転舵

操舵長 2時方向へ転舵。

甲板長 A船、直進してきます。距離、およそ800

男 機関逆進・・・いや、進路を保持。

機関長 機関出力、変わらず。

艦長 よろしいのですか。

男 これ以上、計画を遅らせるのはまずい。減速せずに離合する。

艦長 わかりました。

男 警笛鳴らせ。

通信長 「了解」

短い警笛が5回鳴らされる。

甲板長 A船、更に直進してきます。距離600!

男 馬鹿な。どうして転舵しない。ぶつかろぞ。通信は・・・

通信長 「×」

男 そうだった。再度、警笛鳴らせ。

通信長 「了解」

短い警笛が更に5回鳴らされる。

甲板長 A船、不管旗を掲げています。我、操舵不能。

男 なんだと。

艦長 船長。

男 わかっている。面舵一杯。

操舵長 面舵一杯!

男 (艦長に) 副船長、君は機関を頼む。

艦長 (領いて) 右舷機関逆進!

機関長 右舷機関逆進。始動まで10秒。9、8、7、6

甲板長 A船まで、距離400!

男 まだか。

機関長 5、4、3、2、1、右舷機関逆進起動!

甲板長 距離300です！
航海長 本船、回頭中。5度・・・10度
艦長 右舷、機関停止。前進始動準備
機関長 右舷、機関停止。始動準備完了まで10秒。
航海長 15度・・・20度
甲板長 距離、200です！！
男 舵を戻せ！
操舵長 舵、戻します。
艦長 機関、全速前進！！
機関長 機関、全速前進！
甲板長 距離100！！
航海長 (計算して) 大丈夫、かわせます。

静かな間。

甲板長 A船、本船後方を通過。衝突回避。
男 ふう。

男、椅子に腰掛ける。
一瞬、船内に安堵感が漂う。
と、そこに警笛が大きく響き渡る。

甲板長 距離200、10時方向、別の船です！ 速度、およそ10ノット。
航海長 (計算して) まずい。
艦長 船長！
男 ……
艦長 船長、指示を！！

男、眠っているのか、目を閉じたまま、反応がない。

甲板長 B船まで、距離150。

男、その声に飛び起き・・・

男 いかん。両舷機関逆進。緊急停止！
機関長 緊急停止！
艦長 間に合わん。
男 面舵一杯。
操舵長 もう切ってます！
甲板長 B船、左舷回頭。距離100。

機関長 無理です、止まれません。
航海長 回避不能・・・衝突します！
甲板長 距離50！
男 全員、対衝撃姿勢！！

乗組員、全員対衝撃姿勢を取る。
舳先で、静かに眼を閉じる女。
一瞬の不気味な静けさ。
ガリガリと、激しい衝撃音。

新入 それで、どうなったんですか。
艦長 向こうの船尾をかすただけで済んだよ。奇跡的にね。傷が入ったのは、この船のフィギュアヘッドと、それから船長の心だけだ。
新入 フィギュア：ヘッド？
艦長 船首の像だよ。航海の守り神だ。

傷を負った女、舳先に立っている。

女

あの日、あなたは私の身体に大きな傷を残した。歴史にも記録にも残らないただの事故。だけど、それ故に、歴史にも、過去にすらなれず、記憶から消えない。歴史という名の連なりは、今へと至る過去を悔やみ続ける、後悔の記録なのかもしれない。誰も未来を見通せないからこそ、人は自分以外の誰かの声に耳を傾け、従おうとするのでしょうか。だとすれば、船長。全てを見通せない霧の中で、それでもあなたにだけ見える星を目指し進むあなたを、笑える者など誰もいない。その重き荷を背負い海をゆく、孤独な船長。あの日の後悔を捨て、もう一度、新たなる航海へ。

修理に向かっていた乗組員、戻ってくる。

一同 ……船長。
機関長 たしか、前の港で降ろしたはずじゃ。
艦長 いいや、乗って頂いてる。
航海長 でも、こんな状態じゃ。
艦長 確かにな。
操舵長 だったら。
艦長 船長は下船をせずに乗船中。うーん。上中下と揃って、どことなくゴロがいい。
料理長 この状況でまだゴロですか。
艦長 この状況だからこそだよ。ゴロのない人生なんて、ムツゴロウさんのいないどうぶつ王国のようなもんだ。

通信長 「？」

艦長 甲板長、状況は。
甲板長 報告します。浸水、止まりません。
艦長 やむを得ん。このブロックを放棄する。総員、直ちに待避。
甲板長 総員、待避！

一同、待避。
艦長、船長を連れ、甲板へと向かっていく。

甲板長 いくぞ。
新入 あ、はい。

重々しく、船倉の扉が閉じられる。
暗転。

(シーン3終了)

海鳥の鳴く声。

そこは変わらず呑気なスタン号の船上。

新入 甲板長。

(気づいてない)・・・。

新入 榊原甲板長。

甲板長 なんだ。

新入 暇ですね。

甲板長 暇だな。

新入 あの。

甲板長 なんだ。

新入 どうして、田中が榊原になったんですか。

甲板長 忘れたっていつてるだろうが。

新入 だって、気になって眠れないんですもん。

甲板長 忘れる。かわりに玉手航海長と加賀谷操舵長のやつなら教えてやろう。

新入 ああ、長いわりにつまらないのと、短いけどマニアックだっていう。

甲板長 山本から玉手になったのはだな、山本↓ノリ↓ウラシマ↓太郎↓竜宮城↓鯛や

平目↓乙姫さま↓玉手箱。まあ、長いといっても、ウラシマから一気に玉手箱に飛んでもなんの支障もないけどな。

新入 ああ、その玉手なんだ。

航海長、操舵長と連れだって登場。

航海長 ちよつと、なに人の名前の由来教えてんのよ。

甲板長 だって、俺の名前の由来知りたいなんていうからさ。

操舵長 答えになってない。

甲板長 で、こいつが佐藤から加賀谷になったのは、佐藤↓パンチ↓キック↓松本↓ハ
ウス加賀谷

新入 たしかにちよつとマニアックですね。

操舵長 うわ、もうやめてよ、ホント。

航海長 バラすよ。

操舵長 バラしちゃうよ。

航海長 しかも逆から。

操舵長 榊原から田中に辿り着くまで。

航海長 榊原といえは

操舵長 郁恵。郁恵といえは

航海長 旦那が渡辺徹。

操舵長 渡辺徹といえは、太陽にほえろのラガー。

航海長 ラガーといえばキリン。で最後に
甲板長 やめろー！！

と、そこに艦長がやってくる。

艦長 玉手航海長、加賀谷操舵長。

航・操 あ、はい。

艦長 君たち、名前を変えてみる気はないかね。そうだな、（おまかせします）君は赤
ヘル、君は青ヘルでどうだろうか。

航・操 意味がわからない。

操舵長 特に私の方が。

艦長 赤ヘル航海長。青ヘル操舵長。うーん、いい名前だ。

航海長 いや、ちよつと勘弁してください。

操舵長 特に私の方のを。

艦長、笑いながら歩み去る。

後を追う、航海長と操舵長。

新入 あの、キリンと田中がどう繋がるんですか。

甲板長 知らん知らん知らん。

甲板長、逃げ出す。

新入 勘弁してよ、余計気になるじゃん。

と、入れ替わりに機関長がやってくる。

機関長 おお、いたいた。ええと、キャラメル。

新入 キャンディです。

機関長 ちよつと、機関室まで来てくれ。

新入 どうしたんですか。

機関長 なんだかわからないスイッチがあるんだ。

新入 マニュアル読んでくださいよ。

機関長 来てくれないと押しちゃうぞ。

新入 知らないですよ。

機関長 知らないからな、どうなっても知らないからな！

機関長、ポンポン怒りながら機関室へ戻っていく。

料理長、メニュー表を持ってやってくる。

料理長 今日メニューです！
新入 (読んで) またカレーだよ！

料理長 金曜日だから、今日もカレー。

新入 その日本語、おかしいですよ。っていうか、メニューがおかしい。どうして毎日毎日から晩までカレーなんですか。
料理長 だって、それしか作れないし。

新入 今、料理人としてあるまじき発言が聞こえたような気がするんですが。

料理長 あの、それはさておきですね、今晚の食材にしようとした、ほ乳類の小動物が見あたらないんですけど、誰か知りませんかね。

新入 ひよつとして、あなたですか、あのネズミ。

料理長 いや、私はネズミじゃないですけど。

新入 いや、そういう意味じゃなくて。

料理長 おっかしいなあ。どこいっちゃったんだろ。

料理長、何かをごまかしつつ去っていく。

新入 俺ら、いったい毎日何食わされてんだろ。結構何でも食べちゃうんだよな、カレーにしちゃうと。

と、通信長がトコトコとやってくる。

通信長、新入りの肩をポンと叩いて・・・

通信長 「(なにかいい事を言ってるっぽい)」
新入 わからない。

通信長 「(更になにかいい事を言ってるっぽい)」

新入 だいたい、どうしてあなたは喋らないんですか。

通信長 「(その質問には答えられない)」

新入 ああ、もう、わっかんねー！

と、ドスンと音がして、船の駆動が止まる。

新入 あれ、止まった。

料理長以外の一同、甲板にわらわらと集まってくる。

艦長 なんだ、どうした。

甲板長 故障か？

やや遅れて機関長、甲板に上がってくる。

機関長 だから、どうなっても知らないって言ったのに。
新入 だから、マニュアル読んでくださいっていったじゃないですか。
機関長 読んだ。

新入 じゃあ、どうして。
機関長 押してから読んだ。緊急停止ボタンだった。復旧まで2時間かかる。

新入 意味ねー！！

艦長 困ったな。よし、誰か漕げ。

甲板長 よし、漕げ！

航海長 誰か。

操舵長 はい、漕いで漕いで。

機関長 誰か漕げよ。

通信長 「誰か」

料理長 あ、そうだ、奴隷買ってきましょう、奴隷。

航海長 うわ、問題発言。

操舵長 つていうか、どこで買うの。

甲板長 鳥に引かせるつてのはどうだろうか。

機関長 帆を張ったらどうだ。

艦長 なるほど。では、(航海長に) 稲垣メンバー。

航海長 はい。

新入 名前、また変わってるし。

艦長 それから、(操舵長に) 森メンバー。

操舵長 はい。

新入 懐かしいな、その名前。

艦長 帆を張る準備を。

航・操 アイアイサー。

帆が準備されるが、風が無く船はピクリとも動かない。

新入 あのを、艦長。

艦長 リーダー。

新入 はい？

艦長 今日から私は中居リーダー。私のことはリーダーと呼びたまえ。船のリーダーだけに、リーダーシップ。ぶぶぶぶ。よし、きれいに決まった。音楽。

艦長、帽子を空に放り投げる。

芝居が終わりそうな音楽。

新入 大丈夫かな、この船。

と、その帽子を拾い上げる男。

船長の姿がそこにある。

一同 船長！？

船長、無言のまま敬礼。

一同、整列し、敬礼を返す。

舳先には、女の姿。

女

欲望という名の帆を広げ、流行という名の波に乗り、希望という名の風を受け、
栄光という名の海を行く。そんな航海。その果てに、まだ、あなたにしかみえな
い星を目指して。海をゆき、宙をゆく、全ての船に。
ボン・ボヤージュ。よい旅立ちを。

追い風。

船の帆が大きく風を受けて膨らむ。

風を受け、疾走する帆船。

やがて、暗転。

(幕)

脚本執筆に際し、以下のサイトを参考にしました。

Wikipedia「大航海時代」 <http://ja.wikipedia.org/>
腰椎椎間板ヘルニアになっちゃいました。 <http://www.taihann.com/hernia/>